

旭川市市民参加推進会議（令和6年度第2回）会議録

| | | |
|-----|---|-------------------------------|
| 日時 | 令和6年9月11日（水） 午後6時30分～午後8時30分 | |
| 場所 | 旭川市総合庁舎7階 大会議室C | |
| 出席者 | 委員8人 小松委員，後藤委員，椎名委員，杉山委員，田古嶋委員，中込委員，長谷川委員， 福屋委員（50音順） 事務局4人 片岡部長，松山課長，青木補佐，朝日主査 | |
| 傍聴者 | なし | |
| 資料 | 資料1 1 | 令和5年度市民参加の実施状況 |
| | 資料1 2 | 附属機関と懇談会の違い |
| | 資料1 3 | 公募委員の応募・就任状況（令和元年度から令和5年度の経過） |
| | 資料1 4 | インスタグラム掲載内容（第1回旭川市市民参加推進会議分） |
| | 資料1 5 | 各附属機関のSNS掲載状況について（調査票） |
| | 資料1 5 - 2 | 各附属機関のSNS掲載状況について（調査結果） |
| | 資料1 6 | SNSの特徴 |
| | 資料1 7 | 課題解決検討シート |

I 開会

委員の8人が出席したため，条例第19条の規定により会議の成立を報告した。

II 議事

1 令和5年度市民参加の実施状況について

<会長>

「令和5年度市民参加の実施状況について」事務局から説明をお願いします。

<事務局>

資料1 1を説明，報告。

<会長>

実施状況について報告を受けたということでよろしいか。

（一同同意）

2 公募委員の応募・就任状況について

<会長>

続いての議事である「公募委員の応募・就任状況について」事務局から説明をお願いします。

<事務局>

資料1 2，資料1 3を説明。

<会長>

この市民参加推進会議も公募委員のおかげで成立している。公募委員に応募動機を聞いていきたい。

<委員>

主に、旭川市近隣の町でゼミ活動をしているが、旭川市でまちづくりをすることが少なく興味があった。とてもいい機会だなと思って応募した。

<委員>

この「市民参加推進会議」というタイトルから、「市民が参加しなければ！」みたいな気持ちが私の中では大きくあった。そのテーマがすごく大事だと思ったところが大きい。

<委員>

市議会を7～8回傍聴したことがあるが、改善したいと思う場面がたくさんあった。改善をどうすべきか考えたときに、「傍聴者だ。」と思った。傍聴者が議論に参加できないことは十分理解しているが、この会議などを見て「こういうことがあればいい。」という意見は大事にすべきだと思い、この会議に参加することにより、少しでも市民参加に貢献できると思ったことが1番の動機である。

<委員>

私は昨年、旭川市の未来会議2030に参加して、そこで皆と考えた企画が実際に形になった経験がある。喜びや充実感がとてもあった。私は何者でもない一市民だと思っていたが、発言することが形になり、喜びにつながるのであれば、是非応募したいと思った。

<委員>

私は道外の出身者で、旭川に移住してきた。当初、旭川の現状にとっても愕然としたが、子どもの未来を考え思い立った時に、別の審議会の公募委員として関わる機会を得た。それがとても刺激的かつ感動的で、旭川のことを考えるターニングポイントになった。しかし、良い意見がたくさんあるその審議会が報告会を開催したところ、市民の参加がほぼゼロだったと聞き、とても悲しいと思った。市民参加推進会議で、いろいろと学べたらまた新しい切り口があるのではないかと思ったのがきっかけである。

最近、会議を終えて帰宅すると、子どもたちがどんな会議で何を話し合ったのかを気にするようになった。子どもたちが大人になったときに、旭川のために貢献してくれるようになったら嬉しい、そういう未来の種まきの意味を込めて応募した。

<会長>

さきほど事務局から報告があったように、公募の人数が思わしくないという現状がある。公募委員の充実に向けて現状から何が足りないと思うか。

<委員>

その前に、そもそも公募委員の応募に行き着く過程があると思うが、最初に公募の情報を目にした媒体は何であったのかを知りたい。

<会長>

公募委員に一人ずつ回答をお願いします。

<委員>

- ・広報である。
- ・ホームページである。
- ・知人のSNSや会話、市職員からの情報である。

・公募チラシである。

<会長>

一度きっかけがあると広がっていくと思うが、そのきっかけをどう作ったらいいか？

<委員>

- ・市のイベントで公募チラシを配付する。
- ・ラジオで公募コーナーの時間をつくって案内する。
- ・総合庁舎1階のテレビ（デジタルサイネージ）を使う。
- ・参加者の声を伝えられる手段があればいいのではないか。

<事務局>

公募の話になると周知方法がテーマになりがちである。確かに周知は大事だと思うが、参加するまでの過程に大きなハードルがあるように思う。そのハードルを乗り越えるモチベーションはどのように生まれるのか各委員に聞きたい。

<委員>

- ・市役所職員とコミュニケーションが取れると大きな手応えになると思う。何かの手応えがあると人は一歩が踏み出しやすくなるのかなと感じる。
- ・市と市民の距離感が近くなれば、もっと市のことを知りたくなる。そこから、市のことに関わりを持ちたくなる。
- ・経験者から参加のメリットを伝え、未経験者のモチベーションをあげていく。
- ・参加することのハードルを下げるための、1回目が何かあればいいのではないか。
- ・入口は無理矢理だったとしても体験した結果、楽しさを実感し、始まることもある。
- ・報酬を前に出して、ボランティアではないということを知らせることも1つの方法だと思う。

3 SNSの掲載について

<会長>

議事3「SNSの掲載について」事務局から説明をお願いします。

<事務局>

資料14～資料17を説明。

<会長>

本日は、資料17の1、2を意見交流する。では、グループに分かれて、意見交流をはじめます。

（意見交流）

<会長>

意見交流した内容について、1グループの発表をお願いします。

<委員>

- ・ルールを細かく決める必要がある。
- ・会議内で発言すべきものは会議のなかで発言し、SNSでは審議内容を掲載しない。
- ・当たり前に見えるようなことも必ずみんなで共有してからシェアする。
- ・ルールがあって、いろいろな人が発信できるともっと届きやすくなる。

<会長>

2 グループの発表をお願いします。

<委員>

- ・使用する「ハッシュタグ」，「写真」や「文章」などの素材をあらかじめ事務局で限定する。
- ・厳しいルールづくりは必要。

<会長>

3 グループの発表をお願いします。

<委員>

- ・事務局が SNS 発信した内容をそのまま転用することが一番安心・安全である。
- ・SNS を掲載する時には，事前に担当部局に報告し，承諾を得てから掲載する。

III 閉会

<会長>

大変真剣で活発な議論と意見交流であった。次回に生かせる会議だったと思う。
本日の審議は以上とする。